

主はわたしの牧者

詩編 23 : 1－6



司祭 ヨハネ 井田 泉

降臨節前主日
2025 年 11 月 23 日

京都聖三一教会にて

今日は降臨節前主日。1 週間後にはクリスマスに備える降臨節（アドベント）が始まります。

今日は、先ほどご一緒に唱えた詩編第 23 編を味わってみましょう。この 23 編は、詩編の中でももっともよく親しまれているものだと思います。（本文は祈祷書のものを用います。）

遠い昔の信仰の詩人が、自分の経験してきたことを歌います。

1 主はわたしの牧者 〓 わたしは乏しいことがない

2 神はわたしを緑の牧場に伏させ 〓 憩いの水辺に伴われる

主はわたしの牧者。わたしは羊であり、神がわたしの牧者、羊飼いです。神がわたしを守り、養い、導いてくださいます。この方のもとにいる限り、この方に従っていく限りは、大丈夫。わたしは乏しいことがない。

神は、疲れたわたしを緑の牧場に休ませてくださる。神に守られているので安心です。緑豊かな草をほしだけ食べることができます。渴けば、牧者なる神はわたしを水辺に連れて行ってくくださる。深い憩いがあります。

「憩いの水辺」は、文語訳、口語訳では「いこいのみぎわ」でしたが、新共同訳で「憩いの水のほとり」となり、数年前に出た聖書協会共同訳で「憩いの^{みぎわ}汀」に回復されました。

「憩いの水辺に伴われる」ということがどれほどありがたいことか。ひどい渴きの苦しみを経験した人にはよく分かります。

個人的なことで恐縮ですが、わたしの弱みのひとつは「渇き」です。もうずいぶん前のことですが、山道を車で走っていて、渇きが襲ってきました。もう 10 分も走れば水が手に入る。それなのによほど車を止めて、知らない人の家に駆け込んで「水をください」と言おうかと本気で思ったことがあります。その時は何とか辛抱しましたが。それで、今はどこへ出かけるにも、水筒を用意しています。

イエスさまが十字架の上で「渇く」と叫ばれたとき（ヨハネ 19:28）、どんなに苦しかったことでしょうか。

3 神はわたしの魂を生き返らせ || み名のゆえにわたしを正しい道に導かれる

心が死ぬ、魂が死に瀕する、ということがあります。不安、恐怖、侮辱、差別、抑圧。人が人の魂を殺すようなことがある。この詩人はそれを経験したのでしょう。しかし「神はわたしの魂を生き返らせ」てくださる。道に迷ったわたしを、立ちすくんで動けなくなったわたしを、正しい道に導かれる。

「み名のゆえに」が少しわかりにくいですが、「み名」とは神の名。神の名前とは神の本質のことです。神の本質とは「真実であること」だと理解してみましよう。神はその真実のゆえに、言い換えればわたしたちに対する変わらぬ真心のゆえに「わたしを正しい道に導かれる」。

**4 たとえ死の陰の谷を歩んでも、わたしは災いを恐れない ||
あなたがわたしとともにおられ、あなたの鞭と杖はわたし
を導く**

死の陰の谷。生きては通り抜けられないような危険な暗黒の谷です。人生の道を行くとき、命の危険にさらされることがある。しかしわたしは恐れない。「あなたがわたしとともにおられる」からです。

これまで「主」「神」と三人称でうたってきたのに、ここで急に「あなたが」という二人称になりました。うたっているうちに神への呼びかけが、祈りが起こってきたのです。

「あなたがわたしとともにおられる」。これが拠り所です。これが支えです。これがあるので生きてゆけます。

「あなたの鞭と杖はわたしを導く」

あなたの杖と鞭はわたしに襲いかかるものを退けて、わたしを導いてくださる。

**5 あなたは敵のしている前でわたしのために食卓を整え ||
わたしの頭に油を注ぎ、わたしの杯を満たされる**

敵が向こうからこちらをにらんでいる。けれども神に守られている。神が、あなたがわたしのために食卓を整えてもてなしてくださる。頭に油を注ぐのはお祝いの宴での最高のもてなしです。芳しい香があたりを包む。杯を満たすのはおいしい飲み物。困難や危険がないからではなく、困難や危険に取り囲まれ

つつ、神が、あなたがこれほどに祝福してくださるので、わたしは平安と喜びに満たされます。

これをわたしたちは聖餐をとおして経験させられます。

6 神の恵みと慈しみは、生きている限り、わたしに伴い || わたしは永遠に主の家に住む

この詩人にとって「永遠に主の家に住む」ことが最大の願いであり喜びです。それを経験する場所が、真心からの礼拝の場であつたに違いありません。

ところでボンヘッファー（ドイツの牧師、神学者。ヒトラーのナチに抵抗して絞首刑となった）という人は「詩編の中でイエスが祈っておられる」と言っています。この詩編 23 編をイエスがうたい、祈っておられるものとして読み、あるいは唱えたらどう聞こえるでしょうか。

- 1 主はわたしの牧者 || わたしは乏しいことがない
- 2 神はわたしを緑の牧場に伏させ || 憩いの水辺に伴われる
- 3 神はわたしの魂を生き返らせ || み名のゆえにわたしを正しい道に導かれる

イエスご自身が神に頼って、神に信頼して、神に導かれ神に従って生きておられた。

- 4 たとえ死の陰の谷を歩んでも、わたしは災いを恐れない ||
あなたがわたしとともにおられ、あなたの鞭と杖はわたし

を導く

イエスは敵に囲まれ、憎しみを受けて、事実死の陰の谷を通って死んでいかれました。けれども神がともにおられたのです。

ここまで、この 23 編の詩人の言葉と祈りに耳を傾け、またこの詩編をイエスが祈っておられる祈りとして聞きました。もう一つ、読み方があります。と言うより、わたしにはそう聞こえてくるのです。何かというと、この詩編をとおして、イエスがわたしの牧者となってわたしに呼びかけておられる、ということです。

1 主はわたしの牧者 || わたしは乏しいことがない

イエスがわたしに言われます。

「わたしはあなたの牧者、あなたは乏しいことがない」

2 神はわたしを緑の牧場に伏させ || 憩いの水辺に伴われる

「わたしはあなたを緑の牧場に伏させ、憩いの^{みぎわ}汀に伴う」

3 神はわたしの魂を生き返らせ || み名のゆえにわたしを正しい道に導かれる

「わたしはあなたの魂を生き返らせ、わたしの真実と愛のゆえにあなたを正しい道に導く」

4 たとえ死の陰の谷を歩んでも、わたしは災いを恐れない || あなたがわたしとともにおられ……

「たとえあなたが死の陰の谷を歩んでも、あなたは恐れることはない。わたしがあなたとともにいるのだ」

から」

5 あなたは敵のしている前でわたしのために食卓を整え 〓
わたしの頭に油を注ぎ、わたしの杯を満たされる

「わたしはあなたの困難と危険のなかであなたのために食卓を整え、あなたに聖霊の油を注ぎ、あなたの杯をわたしの祝福で満たす」

6 神の恵みと慈しみは、生きている限り、わたしに伴い 〓
わたしは永遠に主の家に住む

「わたしの恵みと慈しみは、生きている限り、あなたに伴い、あなたは永遠にわたしの家に住む」

わたしの牧者となってくださったイエス、わたしたちの牧者となってくださったイエス・キリストが、あらゆる人の牧者となってくださることを祈りつつ、わたしたちは歩み働きます。

ご一緒に詩編第 23 編を声を出して味わいつつ唱えましょう。

- 1 主はわたしの牧者 〓 わたしは乏しいことがない
- 2 神はわたしを緑の牧場に伏させ 〓 憩いの水辺に伴われる
- 3 神はわたしの魂を生き返らせ 〓 み名のゆえにわたしを正しい道に導かれる
- 4 たとえ死の陰の谷を歩んでも、わたしは災いを恐れない 〓
あなたがわたしとともにおられ、あなたの鞭と杖はわたし

を導く

- 5 あなたは敵の见ている前でわたしのために食卓を整え ||
わたしの頭に油を注ぎ、わたしの杯を満たされる
- 6 神の恵みと慈しみは、生きている限り、わたしに伴い ||
わたしは永遠に主の家に住む

(後奏 聖歌 461 主はわが飼い主)